地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和3年1月14日

協議会名：新城市地域公共交通会議

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度（1.0を基準値（普通）とし、0.8～1.2の間で数値が高いほど満足度が高い） の3項目で評価		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
豊鉄タクシー株式会社 西部線 （地域内フィーダー系統）	川田原滝～ 新城東高校	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・希望者に対し、マイバス時刻表を作成し、配付を行った。 ・沿線地区である千郷地区の地域協議会で地域との意見交換を実施した。地域の高齢者に対するアンケート調査の結果等を踏まえながら、地域の移動ニーズに合った移動手段を検討した。 ・乗降調査日の全便に市職員が乗り込み、利用者からは利用目的、利用頻度、満足度など、運転手からは利用者の様子や経年変化の聞き取りを行った。	A	市内で沿線人口と65歳以上人口が共に最多となる西部地区を運行する本路線は、市中心部の医療機関への通院や商業施設への買い物等に出かけるための重要な路線となっている。事業は、計画どおり実施できた。	B	①利用者数 目標3,658人／実績3,602人 →達成度98% 上期(R1.10-R2.3)利用者：2,079人 下期(R2.4-R2.9)利用者：1,523人 ・利用者数の推移（対R1年度比） （総 数） 3,602人（R2年度）-3,588人（R1年度）・・・14人 ②収支率 目標7.64%／実績6.18% →達成度81% ③利用者の満足度 目標1.09／実績1.08 →達成度（基準値1.0との差 +0.08） ・主たる利用者が高齢者であり、通院や買い物等といった、生活に必要な移動手段として利用者は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降は、外出自粛の要請がなされたことに伴い利用者が減少した。	この路線の利用者は、主に高齢者であり、高齢者が市中心部の医療機関への通院や商業施設への買い物に出かけるための路線となっている。今後は、地域住民と共に、移動手段の課題やニーズについて話し合ってきた結果を基に、具体的な路線の見直しや利便性向上策について検討をしていく。
新城市 塩瀬線 （地域内フィーダー系統）	上島田 ～大海駅・玖老勢	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・希望者に対し、マイバス時刻表を作成し、配付を行った。 ・沿線地区である鳳来北西部地区の地域協議会で地域との意見交換を実施し、バス及び地域の現状と課題を共有し、今後継続的に議論していく方針とした。 ・乗降調査日の全便に市職員が乗り込み、利用者からは利用目的、利用頻度、満足度など、運転手からは利用者の様子や経年変化の聞き取りを行った。	A	中学生の通学の足として、また高齢者の通院や買い物の足として適切に運行ができた。また、他の路線との接続を考慮し、市中心部への移動の利便性を確保することができた。	B	①利用者数（子供利用を除く） 目標1,689人／実績1,530人 →達成度91% 上期(R1.10-R2.3)利用者：654人 下期(R2.4-R2.9)利用者：876人 ・利用者数の推移（対R1年度比） （子供利用除く） 1,530人（R2年度）-1,472人（R1年度）・・・58人 （総 数） 3,020人（R2年度）-3,895人（R1年度）・・・▲875人 ②収支率 目標3.59%／実績2.92% →達成度81% ③利用者の満足度 目標1.19／実績1.11 →達成度（基準値1.0との差 +0.11） ・主たる利用者が中学生、高齢者であり、通学や通院といった利用が多かったが、令和2年4月以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下で、高校生の通学利用や、通勤での利用者が増えたため、全体として利用者が増加した。	路線の変更により、新たに運行することとなった地区の住民へPR活動を行っていく。 住民の地域住民との意見交換を進めながら、利用者だけでなく未利用者のニーズを把握し、住民生活にとってより利用しやすく、かつ観光客等の新たな利用者獲得も見込めるような路線網となるよう検討していく。
新城市 つくであしがる線 （地域内フィーダー系統）	デマンド運行 作手地区全域	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・市の広報紙でのPRを行い周知を図った。 ・つくでバス関係者連絡会を立ち上げ、利用促進策の検討を行った。 ・Aコープ(農協)での作手バス利用者割引を開始することで利用促進を図った。 ・ニーズに合わせるため、前日までとしていた予約を当日予約も可能とした。 ・運行区域を一部拡大し、作手地区住民が鳳来地区の病院等へ通院できる環境を整えるとともに、鳳来地区住民が作手地区の商業施設等へ行くことができるようにした。 ・乗降調査日の全便に市職員が乗り込み、利用者からは利用目的、利用頻度、満足度など、運転手からは利用者の様子や経年変化の聞き取りを行った。	A	高齢化が進み、集落が点在する作手地区内各集落での生活を維持するために欠かせない路線であり、地域の生活を支えるための運行を実施することができた。	B	①利用者数 目標5,495人／実績3,107人→達成度57% 上期(R1.10-R2.3)利用者：1,675人 下期(R2.4-R2.9)利用者：1,432人 ・つくでバス（つくであしがる線と守義線）の利用者数の推移（対R1年度比） （子供利用除く） 2,034人（R2年度）-2,452人（R1年度）・・・▲418人 （総 数） 4,564人（R2年度）-3,107人（R1年度）・・・▲1,457人 ②収支率 目標5.78%／実績1.97% →達成度22% ③利用者の満足度 目標1.20／実績1.17 →達成度（基準値1.0との差 +0.17） ・主たる利用者は高齢者であり、利用者のうち50%は80歳代の方で、20%は90歳代の方である。全体利用者が減少した要因としては、これまで1日に4回程度利用していた住民が、家族による送迎が可能となり利用しなくなったことや、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛及び高校の休校により利用者が減少したことが挙げられる。	乗り方のお出かけ講座や、体験乗車キャンペーン等を通じて、バスの周知を図るとともに利便性を訴求していく。関係者連絡会を開催し、バスを利用した方への割引制度の拡充など、バスを利用したくなるような仕組み作りや改善すべき点等など官民一体となって協議をしていく。